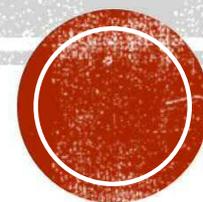


西郷地区の 課題



作成：西郷地区公民館

① 少子化・高齡化



少子化

(R7.4.1現在)

令和7年度	西郷保育園	児童数
		10名

令和7年度	西郷小学校	児童数
		23名



学校規模の適正化と統合

令和6年以降、河原第一、散岐における協議の進展に伴い、河原地域での学校統合の機運が高まっている。

西郷地区も「西郷地区の教育を考える会」で、学校統合の問題を協議していくことが必要となる。

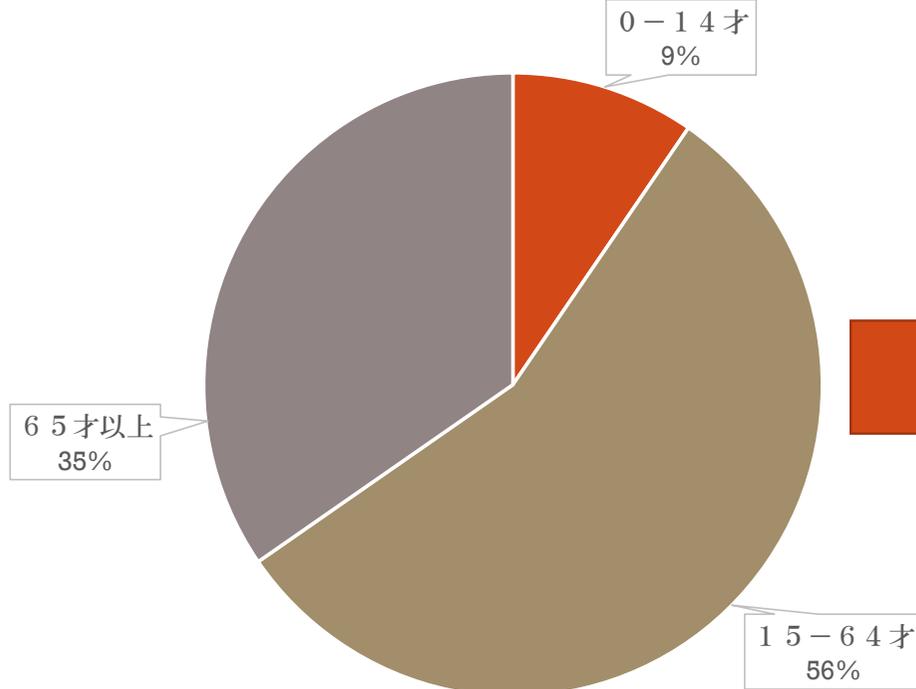


少子化・高齢化

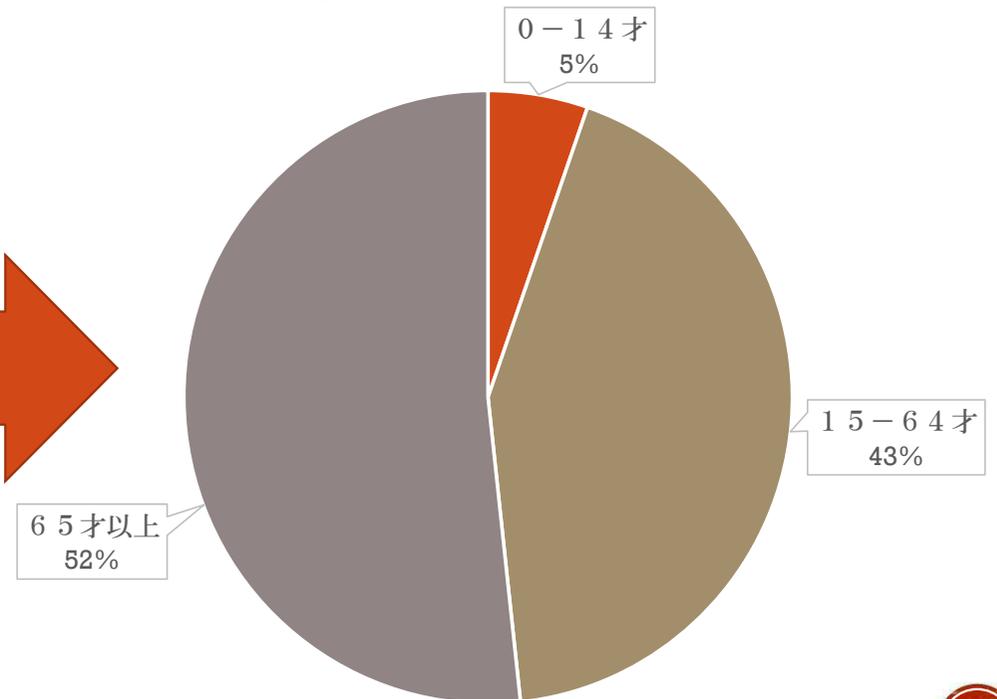
人口の約3割が後期高齢者

412世帯、人口967名(R7.3月末時点)

2009年（1,494名）



2025年（967名）



2

農業後継者の不足と耕作放棄地の増加



3

三滝溪の災害復旧



三滝溪の災害復旧

H29中部地震

遊歩道崩落

R5台風7号

赤井谷崩壊 各所崩落

R3七月豪雨

広域林道崩落 ポンプ小屋裏崩落



4

いなば西郷むらづく
り協議会の高齡化、
後継者の確保



むら協の高齢化、後継者問題



主要メンバーの多くが70代



5

工芸の郷づくり
作作家の移住誘致と
空家き家確保



工芸の郷づくり



花輪窯：花井健太氏、三々窯：小淵祥子氏・廣瀬泰樹氏夫妻の移住を誘致。



⑥ 地域公共交通の維持



7

風車建設計画



風力発電計画の阻止

R2

建設計画の概要が日本海新聞の記事で公になる。
部落長会・むらづくり協議会・PTA・保育園保護者会
の四者による反対決議書を締結、反対を表明。県、市にも提出した。

R4

部落長会・むらづくり協議会・PTA・保育園保護者会・
一般社団法人あまんじゃく・西郷地区の風力発電を考える会
の六者による反対決議を再度締結、改めて反対を表明。

R7

日本風力エネルギーが、事業計画区域を西側に後退させた
見直し計画を持ってくる。



【散岐地区】

地 域 課 題

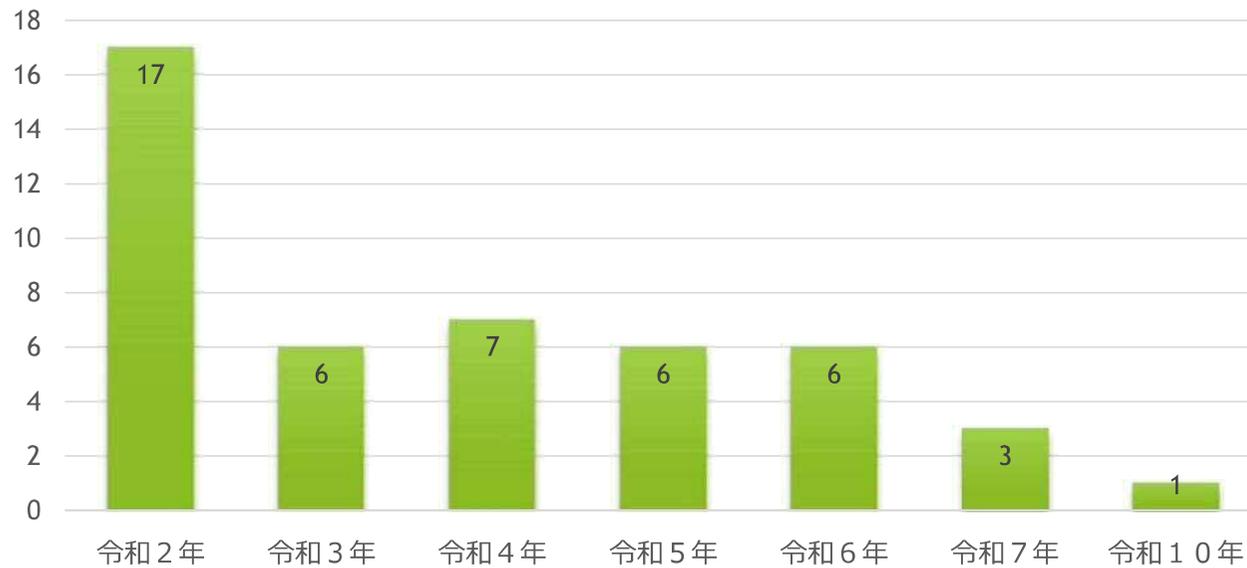
散岐地区公民館 館長 山田 和志

1. 少子高齢化

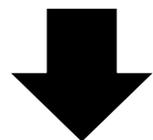
◆ 小学校適正配置問題

令和10年度入学児童が1名で児童数激減

散岐小学校入学児童数



地域住民と子どもとの繋がりが少なくなっている。



解決策模索中

地域住民と子ども達を繋げる方法は？

※まちづくり協議会・公民館では、繋がれる事業・催し物を実施しているものの押し付けになってないか？



2. 高齢者が気軽に集える場所の確保が困難

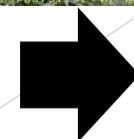
休園中の保育は？



管理ができず、4月から2ヶ月で荒地となってしまうている。



6月7日、4名で草刈り軽トラ3台分の雑草を処分



3. 空き家の増加

年々、空き家の増加により危険空き家が増加している



ご清聴ありがとうございました。





河原地域振興未来会議資料

八上地区の地域課題

八上地区公民館

地域課題①

少子高齢化

(数字は市民福祉課調べによる)

八上地区人口

554人

(R7年度)

高齢化率

65歳以上人口

249人

45.1 %

(鳥取市

31.4 %)



人口に占める割合

14歳以下人口

53人

9.6 %

(鳥取市

12.1 %)



地域課題②

耕作放棄地の増加

(数字は鳥取市農業委員会調べによる)

八上地区	農地面積	105.7ha	放棄地の割合
	耕作放棄地	6.6ha	6.2%
(鳥取市全体)	農地面積	8,471ha	
	耕作放棄地	217ha	2.5%)



懸念される事案... 食料自給率の低下、雑草がはびこり害虫が発生、野生動物の行動圏となる、景観の悪化、管理不十分となり周囲に迷惑をかける、水利の維持管理が困難となる... など

地域課題③

空き家の増加

(数字は鳥取市空き家等実態調査による)

八上地区戸数

179戸

空き家と思われる建物

54件 (見た目調査)

30.1 %

(ガラスが割れたまま、郵便物が大量にたまっている、庭に草が生えている等)

(鳥取市 5.1 %、河原町全体 10.1%)

懸念される事案... 建物が壊れ道路など通行に危険が生じる、景観の悪化、樹木などが道路や隣の敷地に入り込む、空き巣など犯罪が発生する恐れ... など

(市街地では不動産会社が管理したりしているが...)



地域課題④

地域事業の担い手不足

- 集落行事が継続できない（集落の運動会、獅子舞など）
- 集落機能の維持が難しい（防災体制・環境整備）
- 社会環境の変化により高齢者の見守りなど付き合い方が難しくなった

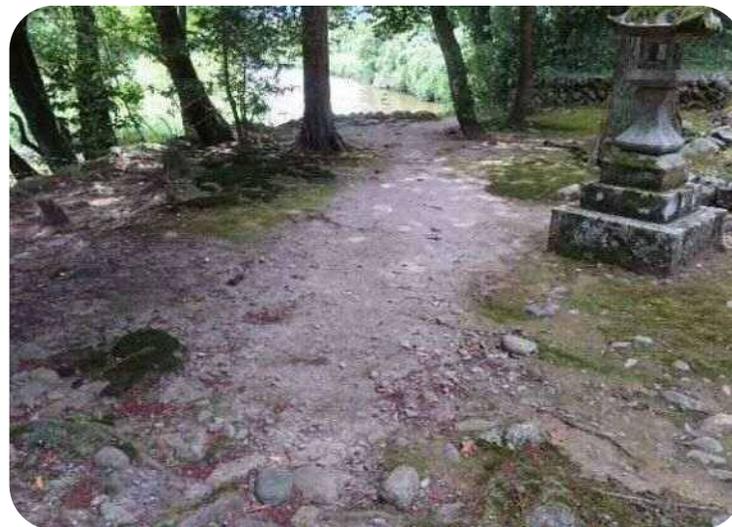
地域課題⑤

その他

令和5年台風7号による浸水状況



最高水位



国英の★よさ

人・自然・共生

子ども会をや高齢者の会など中心に行事が充実している参加者が多いが

国英の人は、協力していこう、助け合っていこうとする気持ちがある

いきいき国英人がつながるふるさとづくり

国英を語る

事業を支えるボランティアの活動が充実している

カフェ「いこい」ができて交流の場が広がってきた

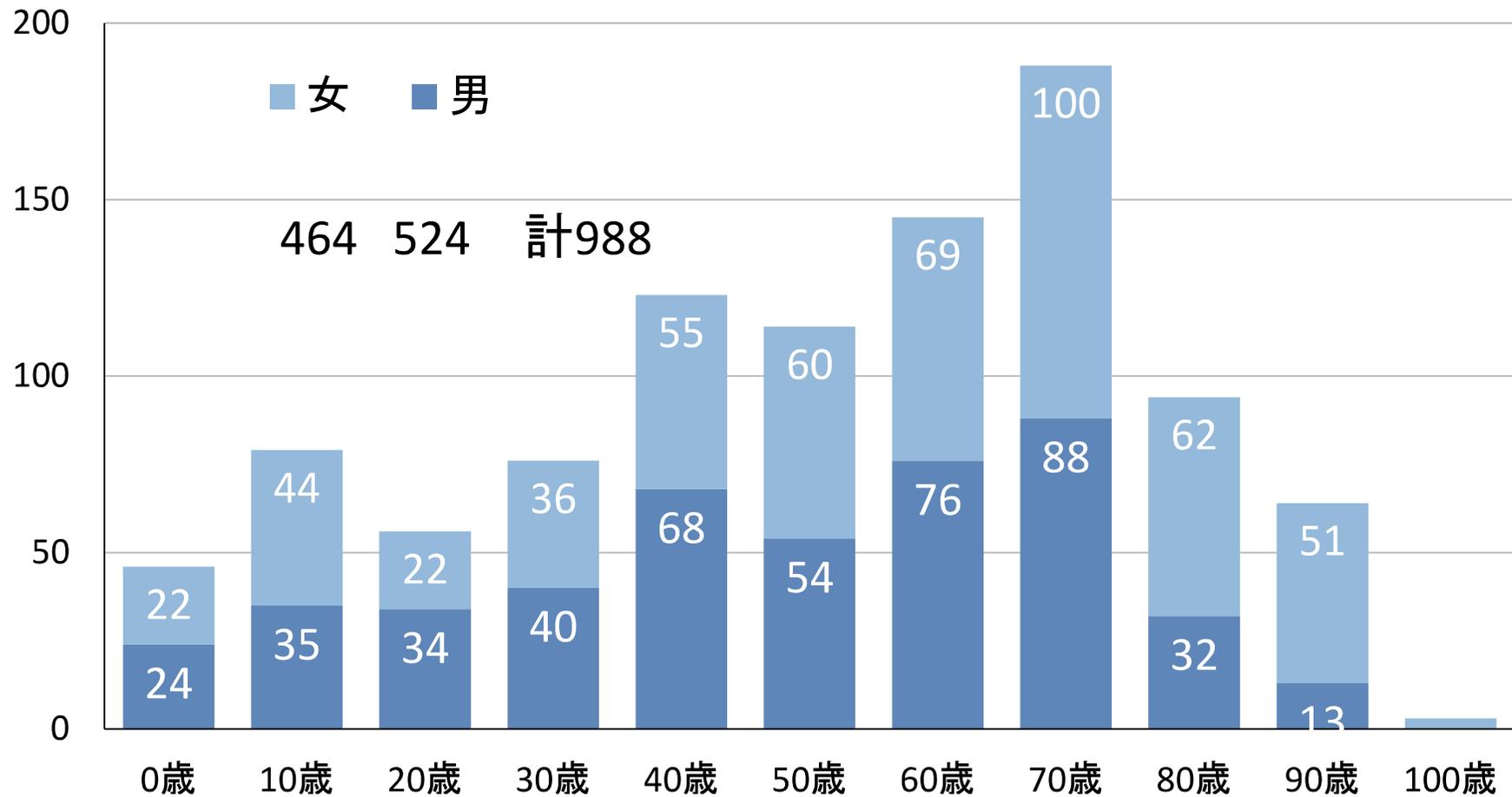
施設の充実ときれいな景観がよい

芝生広場で遊ぶ子ども・親子

国英の自然



国英地区年齢別人口（2024/09）



人口減少と事業の継続性

後継者の確保

地域活動の課題

地域活動を考える会より

- **組織のねらいを明確にし、コンパクト化・スリム化**
公民館といきいき国英、活動の区分が不明確
類似した部がある（文化部と生涯学習部） → **部会の整理・統合**
- **各部（部員）の独立性、主体性、関心を高める工夫**
中高生、子育て世代、現役世代の関わる人を増やす
関わりたくなる事業、組織づくり → **改善志向、マンネリ化の解消**
- **事業への関心を高め、参加者の拡大**
活動に対する地区民の関心が低い、類似した事業
行事参加者の固定化、若年層の不足 → **事業の見直し、意識の拡大**
- **役員・部員の高齢化、減少、後継者の育成**
- **参加者の利便性の向上**
地域が広く、参加したくても参加しにくい → **交通手段、駐車場の不足**
- **公民館職員の多忙化**
公民館やいきいき国英の事業が多く、職員個々の仕事が大変そう

国英ふるさとづくりビジョン2025

令和7年4月12日策定
6月15日イメージ図追加

このビジョンは、2025年から3年間の、国英の地域活動の方向をまとめたものです。今後、1年ごとに振り返りを行い、修正しながら活動を進めていきます。

作成：国英の地域活動を考える会

I コンセプト —よさを生かす—

国英の★よさ
人・自然・共生

テーマ

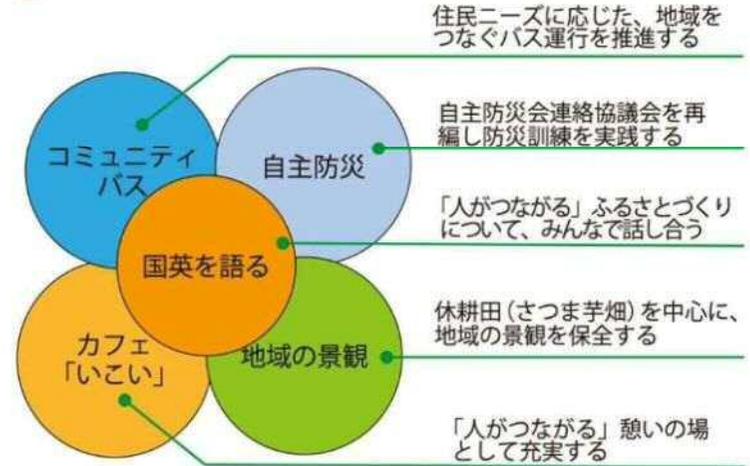
「いきいき国英人がつながるふるさとづくり」
人が輝く／自然がうるおう／共に支える

国英のよさ「人・自然・共生」を活かして、「人のつながり」を大事にしながら地域づくりに取り組んでいきます。主役は、国英に住む人、一人一人です。

地域のみinnで話し合い、思いを共有したり、活動のアイデアを交換したりして、「人が輝く」「自然がうるおう」「共に支え合う」、いきいきとした「ふるさとづくり」を進めていきます。



II 5つの重点 —「ふるさとづくり」の重点—



III 専門部の活動 —人がつながる「学び」と「協働」の場—

いきいき国英ふるさとづくり協議会

総務・広報部

環境・美化部

生涯学習部

コミュニティバス部

健康・福祉部

サロン部

安心・安全部

国英地区公民館

総務部

文化部

体育部

女性部

子ども会活動部

国英地区部落長会

国英地区人権啓発推進協議会

国英地区自主防災会連絡協議会

各サークル・同好会

IV 改善の方向 —思いを共有し、みんなで進める—

○みんなで話し合い、「学びの成果を生かした住民主体の地域づくり」を推進する。

ふるさとづくり会議

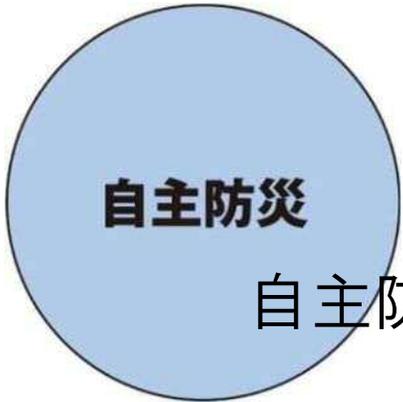
いきいき本部会議

・ねらいを明確にし、事業を見直す

○「地域組織のあり方を検討する

(「一括交付金制度」の活用)

・組織の一本化 ・予算の一本化



共に支える

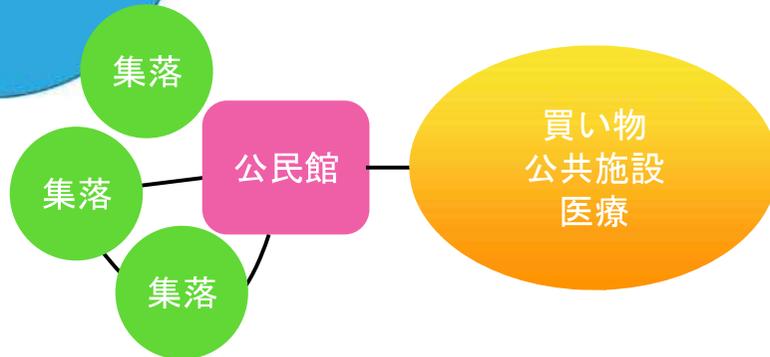
自主防災会連絡協議会の再編

自助・共助の心をどう育むか
若い人の参画



地域をつなぐ

路線・運営の見直し



各集落と公民館をつなぐ



カフェ
「いこい」

人がつながる

スタッフが「楽しい」と感じる
居心地のよい場所に



地域の景観
づくり

自然がうるおう

花いっぱい活動
地域の保全活動
環境整美作業

活動の輪を地域に広げる





みんなで考える

国英を語る会
ふるさとづくり会議
いきいき本部会議

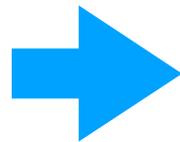
若い人、女性の参画



情報発信・提供

公民館だより

ホームページ



情報を共有する

アイデアを交換する

みんなで創る・実践する

地域に広げる

世代交代の中で、
地域住民主体の「ふるさとづくり」をどう進めるか
その時、公民館はどうあればよいか。

河原地域振興未来会議

河原地区の地域課題

2025/8/25

河原地区公民館

河原地区

- 人口 総人員 2, 4 2 7 名
 6 5 歳以上 7 6 6 名 (31.6%)
 1 4 歳以下 3 1 2 名 (12.9%)
- 地区数 1 1 地区

I 災害問題

1 浸水時の安全確保

(1) 豪雨災害

- ア 大雨による道路、家屋への浸水（冠水）
- イ 堤、護岸の崩落や流木等により、河川の氾濫
- ウ 地区内河川からの氾濫（越水）

(2) 土砂災害

- ア 山・がけ・のり面の崩落等から土砂・木材等の流出
- イ 土砂・流木等で河川を狭窄、洪水・土石流につながる

※ 地震を想定した地区防災訓練後の報告会

本年は、各部落ごとに地震で想定される災害と対策を検討して実施した。

水害時の対策の検討を必要とする意見多数あり



A 緊急指定避難場所

(a) 河原地区公民館

一次的避難場所（各部落指定場所）

(b) 河原地区コミュニティセンター

河一小学校、河原城

B 避難経路

(a) 一次的避難場所から、地区公民館への経路

(b) 公民館から、地区コミュニティセンター、河一小学校等への経路

C 避難指示・情報通知

(a) 防災無線（放送）、部落放送の活用で

(b) 戸別訪問、電話やSNSを使用

鳥取市指定緊急避難場所

◆ 指定緊急避難場所							
No	施設名 所在地	最大収容人員	運用性				備考
1	河原第一小学校	910人	洪水	土砂	地震	津波	洪水：2階以上の垂直避難可
	河原町渡一木179-1		△	○	○	○	
2	河原町渡一木277-1	320人	洪水	土砂	地震	津波	
	河原町コミュニティセンター		×	○	×	×	
3	河原地区公民館	80人	洪水	土砂	地震	津波	洪水：2階以上の垂直避難可
	河原町長瀬45-1		△	○	○	○	
4	お城山展望台（河原城）	900人	洪水	土砂	地震	津波	
			○	×	○	○	
5	桜つづみ公園（総合支所裏）	3,500人	洪水	土砂	地震	津波	
	河原町渡一木		×	○	○	○	

I 災害問題

2 避難場所、避難経路、情報通知等の問題

1 避難場所

- (1) 地区公民館の、避難所としての機能は？
- (2) 地区コミュニティーセンター、河一小学校等までの経路上の安全は？

2 避難指示、情報通知の周知方法

- (1) 防災無線の伝達能力は？
- (2) 部落放送の機能を発揮できるか？

3 高齢者、要支援者、乳幼児のいる世帯の避難は？

- (1) 即座の避難行動への対応は、難しい面がある
- (2) 家族等支援者がいたとしても、時間を要する



▶ 避難場所としては、

空調設備が不十分、多機能トイレ・シャワー設備未完備
館内バリアフリー非対応など

※ 地区公民館の長時間の使用は困難

▶ 避難経路において、

河川からの越水、道路の冠水が始まったら、地区コミュニティーセンター等までの避難路(道路)の使用は危険

▶ 防災無線、部落放送での情報伝達

防災無線で全戸への周知は困難、部落放送は有効であるが、集落ごとでの対応となり、設備のない集落もある

▶ 迅速な情報伝達

高齢者、要介護者、乳幼児を抱える家庭への情報伝達は特に重要になると思われる

Ⅱ 少子高齢化に伴う問題

1 空家、空地（田畑・山）の推移

(1) 空き家、空き地の増加

未管理で長期間の放置家屋の倒壊、荒廃が進み、崩落・崩壊の危険を及ぼす恐れ

(2) 地震・台風の影響

地震、大雨等により、家屋の倒壊、のり面の崩落崩壊、土砂の流出等、被害を増大させる恐れ

(3) 未管理の山林、空き地の影響

雑木林、雑草地となり、病虫害の発生、イノシシ・シカ・クマ等野生動物による被害の恐れ



- 放置された空き家、危険家屋の解体や撤去、樹木の伐採等、空き地、山林等、個人の財産に対する対応は、個人や部落では基本的に難しい
- 空き家対策として、利活用や危険家屋等への対策は、行政機関によって進むものと思われる
- 行政のみで対応できない部分は、NPO、まち協等地域との協働で、空き家等の対策組織づくりを考えることも大切になる

Ⅱ 少子高齢化に伴う問題

2 人口減少と自治会の運営

(1) 人口減少

高齢者の死亡と若者の町外への流出により、地区人口の減少

(2) 自治会から高齢等による脱会と集合住宅新興住宅街を中心に未加入者が増加、自治会加入者が減少

(3) 地域行事（運動会、敬老会、防災訓練等）の実施と、自治会等役員の後継者問題



- 人の往来が減り、商店の閉鎖等で、以前と町並み
が変化し、町の賑わいが少なくなる
- 自治会未加入者のゴミステーションの使用問題
- 自治会加入者数の低下と高齢化による、自治会、
各協議会等役員の担い手が不足
- 地域行事を実施する意義、実施のあり方そのもの
が変化してゆく

地域課題として

- 1 安全な避難と安心できる避難場所
- 2 安心して住み続けられる地域づくり



ご清聴ありがとうございました。

